

憲法改悪反対・国民投票法案反対決議

私たちは、日本と世界の平和を守るため、教育・研究の自由と民主主義を守るために憲法の改悪とその手続きを定める国民投票法案の制定に反対します。

安倍政権はその政策に憲法改正を掲げ、日本を集团的自衛権の行使ができる国に、海外で戦争ができる国にすべく準備を進めています。そして、今まさに、この憲法改悪の手続きを定める国民投票法案が国会で審議されようとしています。

日本の軍事費は今や世界第4位となっており、これは近隣のアジア諸国にとって大きな脅威となっています。軍事大国化の流れは私たちの教育にかかわる予算を圧迫し、私たちから教育・研究の自由と学ぶ権利を奪っています。日本の高等教育予算は、GDP比で他の先進国の半分以下です。

安倍新政権のもくろむ憲法改正はこうした軍事大国化の流れをさらにいっそう推し進めることは間違いありません。その結果は、単に文教予算が削減されるというのにとどまらず、日本とアジアを再び戦争へと導き、破滅の道を歩ませる恐れすらあります。

日本国憲法は、先の戦争で犠牲になられた世界中の方々、辛酸をなめられた先達の無念と苦難を我がものとして私たち自身が勝ち取ったものです。日本国憲法は、戦後60年の日本の平和の基礎となり、戦争で犠牲になられたアジアの人々とも心を開き合い、お互いに助け合い、自由と友愛のうちに学び合うためのかけがえのない礎ともなっています。憲法の理念こそ私たちが求める日本の姿です。

この崇高な理想を踏みにじり、我々を破滅へと導く憲法改悪と、それに先鞭をつける国民投票法案に、私たちは、今、緊急に反対の声を上げます。すべての平和と民主主義を希求する人たちと連帯して、同法案の廃案、現憲法の擁護を勝ち取るまで共に闘い抜くことをここに決議いたします。

2007年3月17日

東海私大教連第28回大会